

都立葛飾商業高等学校 令和5年度 年間授業計画

教科	商業	科目	簿記応用（商業選択）	学年	2	単位	3
教科書(出版社)							
副教材等(出版社)		反復式 学習と検定 簿記問題集 全商2級（実教出版）					

1. 学習の目標

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
企業の諸活動を理解し、その描写である簿記に関する知識を習得する。	発問などに対して、自らの知識を整理し、考えを構築し、表現する能力を養う。	基礎的な知識を理解し、そこから自らの課題を発見し解決する能力を養う。

2. 学習内容

学期	単元	授業内容、	時数
1	1) 取引の記帳Ⅰ 2) 取引の記帳Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現金過不足 ・ 当座借り越し ・ 手形の記帳 ・ 有価証券の処理 	36
2	1) 会計帳簿と帳簿組織 2) 株式会社の記帳 3) 本支店会計	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現金出納帳・当座預金出納帳 ・ 仕入帳・売上帳 ・ 売掛金元帳・買掛金元帳 ・ 株式会社の設立 ・ 剰余金の配当と処分 ・ 本支店間の取引 ・ 本支店の財務諸表の合併 	45
3	1) その他の記帳 2) 総合記帳演習	<ul style="list-style-type: none"> ・ 固定資産の売却 ・ クレジット売掛金 ・ 電子記録債権債務 ・ 総合記帳演習問題 	24

3. 評価規準・評価方法

評価の観点	評価方法	A (良い)	B (概ね達成)	C (不十分)
【知識及び技能】 簿記実務に関する知識を活用し、適切に処理を行うことができる技術を習得しているか。	単元テスト 定期考査 検定試験	記帳・決算など適正な取引の記録と財務諸表を作成することができる。	記帳・決算など適正な取引の記録と財務諸表を概ね作成することができる。	記帳・決算など適正な取引の記録と財務諸表を作成することができない。
【思考力、判断力、表現力等】 発問などに対して自らの考えを述べられるか。 実社会での処理を意識できるか	授業での発問 に対する回答	簿記に関する理論的な知識と技術にとどまらず、実務と関連づけられ、ビジネスのさまざまな場面で役に立つ実務に即した知識と技術が身についている。	簿記に関する理論的な知識と技術にとどまらず、実務と関連づけられ、ビジネスのさまざまな場面で役に立つ実務に即した知識と技術が概ね身についている。	簿記に関する理論的な知識と技術にとどまらず、実務と関連づけられ、ビジネスのさまざまな場面で役に立つ実務に即した知識と技術が身についていない。
【学びに向かう力、人間性等】 教科書等の準備や授業を受ける態度など。	授業への取り組み姿勢 課題等	自ら学び主体的かつ協働的に取り組む態度を身につけている。	自ら学び主体的かつ協働的に取り組む態度を概ね身につけている。	自ら学び主体的かつ協働的に取り組む態度が身についていない。

※具体的な評価方法等

- ・ 検定試験の結果は加点項目とする(減点要素とはしない)

都立葛飾商業高等学校 令和5年度 年間授業計画

教科	商業	科目	ソフトウェア活用（商業選択）	学年	2	単位	3
教科書(出版社)		ソフトウェア活用（実教出版）					
副教材等(出版社)		全商情報処理検定模擬試験問題集2級（実教出版）					

1. 学習の目標

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
企業活動におけるソフトウェアの活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	企業活動におけるソフトウェアの活用に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。	企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業活動におけるソフトウェアの活用主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

2. 学習内容

学期	単元	授業内容、	時数
1	情報通信ネットワークの活用 表計算ソフトウェアの活用	<ul style="list-style-type: none"> ・ネットワークの構成とハードウェア ・ネットワークの利用とソフトウェア ・リスクの管理 ・アクセス管理 ・データの保護 ・情報の集計 ・情報の分析 	36
2	表計算ソフトウェアの活用 企業活動とソフトウェアの活用 データベースソフトウェアの活用 全商情報処理検定2級対策	<ul style="list-style-type: none"> ・情報の集計 ・情報の分析 ・基本表と仮想表 ・データの正規化 ・SQL ・SQLの基本操作 ・リレーションシップ <p>・全国商業高等学校協会 情報処理検定ビジネス情報部門2級演習問題による応用力の習得と検定受験対策 検定日：令和6年1月21日（日）</p>	45
3	全商情報処理検定2級対策 データベースソフトウェアの活用	<ul style="list-style-type: none"> ・全国商業高等学校協会 情報処理検定ビジネス情報部門2級演習問題による応用力の習得と検定受験対策 検定日：令和6年1月21日（日） ・データベースの作成 ・テーブルの作成とデータの入力 ・インポート・エクスポート ・リレーションシップ ・クエリの作成・種類 	24

3. 評価規準・評価方法

評価の観点	評価方法	A (良い)	B (概ね達成)	C (不十分)
【知識及び技能】 ソフトウェアを活用した情報技術についての知識を理解できる。	課題に対する提出物やペーパーでのテスト、授業への取組姿勢	課題を解決するために、表計算ソフトウェアの情報技術に関して具体的な方策を考え、適切に処理することができる。	課題の解決に向けたプロセスに応じて、表計算ソフトウェアの情報技術に関するおおまかな方策を立てることができるが、適切に処理するには課題がある。	課題の解決に向けた方策を教員や友人からの支援があれば考えることができる。
【思考力、判断力、表現力等】 処理条件にしたがって実行結果を導くために、どのように処理をすればよいのかを考えることができる。	課題に対する提出物やペーパーでのテスト、授業への取組姿勢	課題を解決するために、表計算ソフトウェアの操作に関して具体的な方策を考え、適切に処理手順を提示し、処理することができる。	課題解決に向けたプロセスに応じて、表計算ソフトウェアの操作に関するおおまかな方策を立てることができるが、適切に処理手順を提示し、処理するには課題がある。	課題の解決に向けた方策を教員や友人からの支援があれば考えることができる。
【学びに向かう力、人間性等】 学習した内容を理解し、コンピュータを適切に活用しようとしている。	課題に対する提出物やペーパーでのテスト、授業への取組姿勢	学習内容を解決するために、表計算ソフトウェアの活用に関して具体的な方策を考え、適切に活用することができる。	学習内容の解決に向けたプロセスに応じて、表計算ソフトウェアの活用に関するおおまかな方策を立てることができるが、適切に活用するには課題がある。	学習内容の解決に向けた方策を教員や友人からの支援があれば考えることができる。

※具体的な評価方法等

- ・ 検定試験の結果は加点項目とする。(減点要素とはしない)